

平成29年度 第2回 市川市博物館協議会 会議録

日 時：平成29年12月12日（火）午後2時から

場 所：市立市川歴史博物館 2階 講堂

出席者：遠藤行巳、加賀陽子、片岡玲子、越川重治、小嶋亨治、酒井清治、
白井久美子、高橋道夫、福岡直子、松田陽、松本浩和、村松勝美、
山崎京美（五十音順）

須藤治考古博物館館長、石井隆三自然博物館館長

考古博物館：大道直和主幹、笠川賢司主任、領塚正浩学芸員、

歴史博物館：赤坂幸彦副主幹、槇峰和也主任、小野英夫学芸員

傍聴者：なし

事務局：市川市立博物館の設置及び管理に関する条例第12条第1項の規定により、協議会の議長は委員長が行うこととされております。これより先、酒井委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

酒井委員長：では、これより平成29年度第2回市川市博物館協議会を開会いたします。

なお、開会にあたりまして、本日は13名の委員の方々に出席いただいておりますので、市川市立博物館の設置及び管理に関する条例第12条第2項の会議開催の規定、「委員定数の過半数以上の出席」という条件を満たしておりますので、この協議会は成立していることを確認します。

本日の内容は、報告事項2件、その他についてです。では、事務局より報告事項「平成28年度事業評価について」からお願いします。

事務局：平成28年度事業評価について、第1回目博物館協議会の外部評価を受けての報告をさせていただきます。第1回協議会におきましては、貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。ご指摘いただきました点をもとに外部評価について変更した点についてご説明いたします。

「収集・保管及び調査研究事業」で自然博物館の自己評価をCとしていましたが、デジタル化の作業は、ボランティアの活用等によって徐々に進んでいるようですのでB評価でもいいのではないか、というようなご意見をいただきました。そこで、事務局として検討した結果、B評価に変更いたしました。

二点目に、地域連携の教育普及事業で考古博物館の自己評価をBとしていましたが、「好評であった」とするのであれば、A評価でもよいのではないか、とのご指摘を受けましたので、事務局で検討し、A評価とすることにしました。

その他にもご意見をいただきましたが、すべて甘えてしまうというわけに

もいきませんので、以上二点のみの変更とさせていただきます。今年度も、まだ事業が残っていますので、いただいた意見をもとにさらに改善できるよう努めてまいりたいと思っております。以上です。

酒井委員長： 報告のありました、評価の修正について、何かご質問・ご意見があればお願いします。

各委員： 特になし

酒井委員長： 特に意見がないようなので、平成 28 年度の事業に対する外部評価につきましては、了承ということで進めさせていただきたいと思えます。

続きまして、報告事項 2 「市川市公共施設個別計画について」説明をお願いします。

須藤館長： 平成 29 年度第 1 回博物館協議会の際に、平成 27 年度に策定された全体計画の概要は説明させていただきました。その後、本日お配りしている「市川市公共施設個別計画 方針案について」が、担当部署から出されましたので、まずこの内容を簡単にご説明させていただきます。

また、本日ご欠席されている石山委員から、ご意見をいただいておりますので、そちらについても後ほどご紹介させていただきたいと思えます。

資料の 1 ページから 8 ページは前回、説明した内容となりますが、同時期に公共施設を建設したことから、老朽化による補修・立て直し等の検討が必要な時期についても重なっているが、少子高齢化が進み、市民も減っていくことが予想される中で、どのように向き合っていくか、現在の状況や、今後について示しているものになっています。

人口減少に伴って床面積で 5% の削減という数値目標が示されていますが、その 5% をどのように削減するかということについて、6 ページに、再編方法として、用途変更、統合・複合化・移設、減築、廃止・除去・売却等、民営化について、整備手法として、建て替え、改修について説明しています。これにつきましては、予算等にあわせて計画的に進めていくという考え方になっています。

ここまでが前回、説明した内容になっていますが、今回、さらに個別の施設についても方針が示されています。9 ページをご覧ください。

まずこれらの内容は、担当部局から案という形で示されたもので、これ以上の情報を持っていません。ですので、このまま実施するというのではなく、市民の声や、新しい市長の考え方を反映したうえで、今後の方針を決めていくという段階であります。

その中で、博物館施設については、考古博物館、歴史博物館が近接した立地にあること、機能の重複がみられること、老朽化が進んでいることなどから、2 館を統合して新たな施設を建てるという方針が示されています。あわ

せて、考古博物館課の中にある文化財グループが、市内各所で分散して保管している埋蔵文化財についても、同じ施設の中で保管できるようにしたらどうかという案となっています。今回、建物の管理については、このような考え方が示されたわけですが、展示や組織、学芸員の確保などの課題について、まだまだ考えていく必要があると思います。ですので、今日は、この案について、賛成・反対など、さまざまな立場からご意見をいただければと思います。よろしくをお願いします。

酒井委員長： ありがとうございます。では、まず石山委員のご意見を伺いまして、その後、皆さまからの意見をいただければと思います。

事務局： 本日欠席されている石山委員の方からご意見を預かっておりますので、紹介させていただきたいと思います。

①人口減少に伴う税収の減少に対応するために公共施設の見直しを行うことについては概ね賛成です。

②2軸評価をうけた見直し案として、新規の複合施設の建造を望みます。博物館の統合はもとより、図書館、公民館、生涯学習センターなど、広く文化施設を統合する形で、新たな文化施設の建設を望みます。その際には、市民の多くが活用できるような利便性の高い場所(駅前、ターミナル駅が望ましい)での設置を望みます。

③②に関連して、正規職員の人員の確保を望みます。公共施設の設置数、あるいは面積自体を減少させた大幅なリストラが成功しても、サービスの低下は避けなければなりません。さまざまな展示会はもとより、イベント運営に熟練した専門的知識を有する正規の学芸員の確保を要望します。安定した職場環境が提供できれば、さらなる活躍が期待できます。

④指定管理者制度は、基本的には反対であるが、①～③のような複合施設全般の運営をすべて担える業者であれば、あえて反対する意見はありません。研究に基づいて展示をおこなっているのか、常に地域住民のニーズに役立っているのか、博物館業務の基本である、資料の収集、保存、展示、調査研究が十分に行えるのであれば、民間業者の委託も一考に値すると思います。

以上です。

酒井委員長： 皆さまから、この他に意見がございましたらお願いします。

村松委員： 石山委員の意見の中に、利便性の良い立地でという話がありましたが、用地の確保は可能なのでしょうか。

事務局： ご意見の一つとしてこのような意見はありますが、どこに建て直すかといったことについては、まだ全く検討していません。市としても、博物館は2館を統合してはどうかという考えを示しただけですので、事務局として、まだお応えできる段階にないというのが現状です。

山崎委員 : 2館を1つに統合するということですが、今までこの博物館協議会としては、3館が独立しているということに非常に意味があると捉えてきましたが、統合するという方向で決定しているとのことなのでしょうか。

須藤館長 : お配りしました資料「市川市公共施設個別計画 方針案について」に、市長部局の方で、人口が5%減少することに伴って博物館の床面積を5%削減するという既定の方針に基づいて、統合して新たな施設に建て替えたいという案が示されたものになります。これについて、この案がそのまま進んでいくかどうかというところは、まだ全く定まっていない状況ですので、今日、結論を出すということではなく、皆さんのお考えについて伺いする場と捉えていただければと思います。

白井委員 : 考古博物館の立地を考えてみると、堀之内貝塚に隣接しているということに第一義的な意味があると思います。遺跡と一体のものとして親しんできたという立地は維持した方がよいと思います。

運営を一本化するということと、それぞれの博物館の活動の実績を尊重するというのは、別に考えた方がいいと思います。私自身が、20年間別々だった考古資料博物館と、歴史民俗体験型博物館を1つに統合したところに勤めております。運営は一本化となったわけですが、それぞれの良さが相殺されてしまったというマイナスの面も見られています。もし一本化するとしても、今まで培ってきたそれぞれの博物館の活動そのものは変えずに維持していくというような計画をたてた方がよろしいのではないかと思います。

松本委員 : 今後、博物館施設というものが見直されていくのだと思うのですが、考古博物館、歴史博物館が統合され1つになるということに関しては、正直わからない部分が多いのでその点についてはあまり申し上げられません。

その上で、一つの案として聞いていただければと思うのですが、博物館は教育施設として挙げられていますが、レクリエーション施設として、「楽しみ」を提供する施設とも捉えられるのではないのでしょうか。もちろんこれまでの実績である教育や研究という部分は重要で維持していく必要はあると思います。しかし、これから外環道の開通や道の駅の新設によって、これまでと違った人が地域に多く来られるという可能性を考えると、新しい施設としての在り方を考えていく必要があるのではないのでしょうか。複合施設として、図書館や高齢者施設、保育園などの機能を取り入れた施設というのでもいいのではないかと思います。

また、市内に同様の機能を持った施設はないのでしょうか。例えば和洋女子大学にも一部ですが、このような施設があったと思うのですが、そういったところとはどのような連携を図っていくのでしょうか。

福岡委員 : 複合施設についての意見がありましたが、私の経験から少しお話をさせてい

ただければと思います。私が以前、豊島区で仕事をしていた時の事です。結果的には実現できなかったのですが、博物館や図書館、その他諸々の関連施設のある複合施設を作ろうという案がありました。たくさんの施設が入ることになると、それぞれの部署の利用時間が違うために、出入り口一つをとってもどこを開けておくのか、どこを使うのかということが問題になりました。また、博物館には、資料を保管するために欠かせない燻蒸という作業があります。そのためには、ここを閉めておかなければならない、人を入れてはいけないといった問題もありました。その他にも、展示や空調の位置など、さまざまな問題について話し合わなければなりませんでした。

これらのことから学んだことは、複合施設というものは利用者のためになる、と考えられていましたが、本当にそうなのかということです。また、働く人にとっても、働きやすい環境なのかを考えていく必要性を感じました。図面上は良さそうにみえてもそうでないことがたくさんあります。統合施設を作るにしても、このようなことにならないようにしていただければと思います。

松田委員 : 一点確認させていただきたいのですが、人口が5%減るので、博物館施設等の面積も5%減という基本方針が示されたとありますが、それは、本日配られている資料にあるのでしょうか。

須藤館長 : 今日お配りした資料ですと、4ページに関連事項がありますのでご確認ください。「公共施設を管理するために」という項目がありますが、そこに記載のある「公共施設等総合管理計画」というものを、平成27年度に市の方針として定めています。その中で、人口減に対応して、博物館施設等は5%の削減、学校施設においては20%の削減というような数値目標が示されています。それに対応するために、計画の進行管理として、個別計画を策定して、案を提示しているのがこの冊子となっています。2030年までという計画の中で、人口推計をして、5%の床面積を削減することによって施設の管理コストを削減したいというのが、市のオーソライズされた方針となっています。

松田委員 : わかりやすい説明ありがとうございます。今の事を踏まえ、私の意見を申し上げたいと思いますと、全国のさまざまな市町村の博物館の運営を見たときに、市川市の特徴となるのが考古・歴史・自然の3館が独立して存在するということにあるのかなと思います。

理想としては、このまま3館体制を維持することが望ましいのかなと思いますが、先ほどの説明を聞きますと、市の方針として、床面積の5%削減という数値目標が示されているということは、なかなか重みのあるものであり、3館体制を維持するというのは難しいのかなというのが、私の印象です。そ

れであれば、統合というのは、必然的に考えなければならないのかなと思います。

そこでもし、統合するということであれば、先ほど白井委員からもありましたが、私もこの場所は動かないほうがいいのではないかと思います。堀之内貝塚に隣接しているということは、大きな強みであると思いますし、緑地というのは、とても魅力的な場所だと思います。ここから離れるということに関しては、あまり賛同できることではありません。

リニューアルか建て替えかという件に関しては、今年度から委員になったばかりで、現状を十分に把握できていませんので意見できませんが、3館体制を維持していくことを求めているわけですから、それでも統合するということであれば、それは譲歩するということになるのだと思います。譲歩するのであれば、展示の刷新、古い資料をきちんと整理できる体制を整えるために正規職員としての学芸員の人員確保をこちらから要求してもいいのかなと思います。

山崎委員 : 私は、松田委員の意見に賛成です。今までなぜ3館を維持してきたという背景を考えてみると、市川市は、人間の営みと自然との関係が、現代社会においても引き続き維持されているまちであるという文化的・歴史的な裏付けにあるのだと思います。

また、博物館の方々のご尽力によって、教育普及という面においても相当浸透してきていることと思いますが、今後そういったバックグラウンドをどうやって次世代につなげていくか、研究という本来的な博物館業務をどうやって維持していくかということも、しっかりと検討して行ってほしいです。

越川委員 : 私も、できれば3館を維持していくことが望ましいと思いますが、どうしてもということであれば、考古博物館、歴史博物館の統合という形になってしまうのかなと思います。

ただし、統合という形になった場合、心配になるのは、学芸員の問題です。今でさえ正規の学芸員が少ないのに、統合することで、さらに少なくとも良いのではないかという意見が必ず出てくると思います。そのことは、学芸員の数は減らさないという確約の元、言っていないとこれから先、もっと乱暴な意見がでてくると、自然博物館も統合してしまおうという意見さえ出てきかねません。ですので、どのような状況になったとしても、学芸員の人数はしっかりと確保できるような形にして行ってほしいと思います。

村松委員 : 私も、基本的にはこの場所に建ててほしいと思っています。ただし、この場所に建てる場合、どのくらいの大きさのものが建てられるのかということが、一つ大きな問題になってくるように思います。また、学芸員の確保というのも絶対に必要だと、常々思っています。その点も含めて、検討いただき

たいと思います。

酒井委員長： 埋蔵文化財の保管・整理機能も併せて設置するとありますが、埋蔵文化財に関する部署もこちらに入ってくるということが念頭にあるのでしょうか。

須藤館長： 組織として、すでに文化財担当の部門は、考古博物館課の中にあります。現在、埋蔵文化財の調査を担当する職員は、歴史博物館勤務となっていますが、それを補助する非常勤職員と発掘で得られた資料の整理・保管、報告書のとりまとめ等は、現状この立地では場所がありません。そこで、百合台小学校に、空き教室を借りて、そちらで活動している状況にあります。それ以外にも市内5か所で、埋蔵文化財の発掘遺物を分散して保管しています。しかし今後、学校施設の統合や見直しを検討されていく中で、保管場所がなくなっていく可能性も考えられます。

酒井委員長： そうなった際に考えられるのは、統合となっても、今の床面積が基本になると考えられてしまうことです。現状でも収蔵庫が不足している中、さらに埋蔵文化財で発掘された遺物が増えていくことを考えると、床面積としては、相当の面積が必要になってくるものと思われます。簡単に見えますが、この先のことを考えると、少し不安な部分が残ります。

また、皆さんからもお話しがありましたが、統合になった場合に、互いの事業を補佐し合えばいいと思われ、学芸員の人数を減らすという問題が出てくると思います。この市川の博物館というのは、堀之内貝塚という史跡とともにあり、千葉県内の西の拠点という印象があります。これをただ統合してという形にしてしまっただけでは、なんとも市川らしくないように思います。

片岡委員： 学校関係者として思うのは、考古博物館にしても、自然博物館にしても、この場所にあるということが大切なのだと思います。小学生を連れていくと、その場所で実物を見て体験できるということが、非常によい学習の機会となっています。また、学芸員の方から、それぞれの専門性を生かした話を聞けるということは、子どもたちにとって貴重な機会であり、教員としても学ばせていただくことが多いので、ぜひそれぞれの専門性を持った方の人材の確保に努めていただきたいと思います。

酒井委員長： 他にはいかがでしょうか。

各委員： 特になし

酒井委員長： では、今後、この件をどのように進めていくことになるのかお聞かせください。

須藤館長： まだ、生涯学習部としても、この示されたプランについて、どのように扱っていくか、まったく議論されていない段階にあります。これから図書館や公民館、その他の社会教育施設についても、それらをどうしていくのかについて検討していき、その中で、どのように改善要求していくのかなど、教育

委員会としての考えをまとめていくことになると思います。

その中で、利用者の皆さまの意見だけではなく、博物館に造詣の深い博物館協議会委員の皆さんからいただいた、立地や学芸員などに関する意見について報告させていただき、教育委員会の中で取りまとめて、皆さんの意見を伝えていくという次の段階に進むことになると思います。

酒井委員長： 皆さまから、学芸員の確保という話がありましたが、これから先のことを考えていくと、新たな学芸員の採用を考えていかないと、これからの施設維持と言うのは難しくなるのではないのでしょうか。なかなか採用していただけない現状を見ますと、指定管理者制度のような民営化が念頭にあるのではないかとということも危惧もしているところです。ですので、ぜひ、皆さんの意見にもあった、学芸員の確保と施設の維持というものを、教育委員会でもあわせて考えていっていただきたいと思います。

山崎委員： 委員長の発言について、市の方でも検討していただければと思うのですが、指定管理者になるということは、なんとしても避けていただきたいと思います。指定管理者制度になると、どうしても数値目標というものに引っ張られてしまい、本当に知りたいことが分からなくなってしまうことが懸念されます。そうすると博物館の業績を、利益優先でみられてしまう傾向があり、博物館の在り方が変わっていくような感じがします。ですので、ぜひ公立の博物館として、3館の内容を維持し、それぞれの分野の研究を生かせる形で進めていってほしいなと思います。

酒井委員長： ありがとうございます。このような意見を事務局の方で生かしていただいて、よりよい博物館運営につなげていただければと思います。

それでは、次に移りたいと思います。事務局からお願いします。

事務局： それでは、事務局からその他といたしまして、次回の協議会についてお知らせします。次回は、平成30年3月頃を予定しております。よろしくお願ひします。以上です。

酒井委員長： では、これもちまして、本日の日程はすべて終了となります。皆さま、ありがとうございました。

以上